

ウメコブアブラムシ

春から初夏にウメの新芽や若葉に群生するアブラムシ。体は緑色，体長最大2mm。翅（はね）のある成虫は頭部や胸部などが黒い。

被害により新芽が縮れたり，若葉が葉裏を中にして巻き込む。たいていは縦長に葉が巻かれるといわれている。



1. 被害。2000/6/13. 北見市，庭のウメ。



2. 幼虫と成虫，体長1～2mm. 同左。

【学名】 *Myzus mumecola*

【分類】 カメムシ目（Hemiptera），アブラムシ科（Aphididae）

【分布】 北海道，本州。

【生態】

宿主：ウメ，アズキ。

生活史の詳細はよくわかっていないようである。卵越冬。春，ウメの新芽や葉の裏側につき，吸汁する。夏は別の植物に移動する。秋に再びウメに戻り，冬芽の付け根に産卵するといわれている。

【被害と防除】

北海道での被害実態はよくわかっていないようである。農薬で防除する場合はウメのアブラムシ用の農薬を散布する。取扱書に従って使用し，散布の際には通行人や近くの住民らに十分配慮すること。

【文献】

1983. 森津孫四郎. 日本原色アブラムシ図鑑. 全国農村教育協会，東京。（形態，生態の解説）

1996. 湯川淳一，榎田長. 日本原色虫えい図鑑. 全国農村教育協会，東京。（生態の解説）

「文章」原秀穂，北海道立林業試験場，2001/2/8.

higai.JPG, musu.JPG

「写真1」原秀穂，北海道立林業試験場，2000.

「助言」

鳥倉英徳，道立道南農業試験場，2002.